

看護あきた

Nursing Akita

Vol. 106

平成23年度 3号

1 秋田県看護学会報告

3 シリーズ看護部長が看護の思いを語る

4 シリーズ認定看護師 こまち紹介

5 地区活動報告

7 シリーズ在宅看護

8 在宅会員交流会報告

9 認定看護師連絡会議・研修会報告

11 ワークライフバランス研修会報告

12 環境・保健事業功労者表彰

13 選挙管理委員会・推薦委員会からのお知らせ

14 秋田県看護行政懇談会

15 事務局からのお知らせ

秋田県看護協会会報

平成23年度会員数
(平成23年9月30日現在)

6,770名

保健師 281名

助産師 314名

看護師 5,848名

准看護師 327名



秋田県看護学会

メインテーマ 看護職の可能性



日 時 | 2011年11月11日(金)
9:00~16:00

場 所	秋田県総合保健センター
-----	-------------



日 程 | 午前／海外研修報告「イギリスの看護管理」
秋田赤十字病院 新野隆子氏

一般演題発表
(口演8題 示説4題)

午後／一般演題発表
(□演4題)

特別講演
「キャリアの節目を楽しみ、
未来を展望する」
聖隷浜松病院副院長兼総看護部長
勝原裕美子氏

参 加 者 238名(会員236名・非会員2名)

烏卜キ工会長 挨拶

第38回看護学会の開催にあたり、ご尽力をいただいた学会員はじめ会員の皆様に感謝申し上げます。3月11日の東日本大震災から9ヶ月目を迎え、被災地の皆様にお見舞い申し上げますとともに一日も早い復興を願う。日本看護協会では、皆様からの義援金を被災地に役立てられるよう働きかけている。この場を借りて感謝申し上げます。

昨今、医師不足への対応、チーム医療の推進による医療の向上を目的とした“特定看護師(仮称)”の導入が検討されている。また6月に介護職による痰吸引や経管栄養の実施が法制化された。医療の範囲が多くの医療介護職にシフトしている中で互いに連携し、看護職の力を発揮していかなければならない。

秋田県看護協会では、目標のひとつに離職防止を上げ、働き続けられる職場環境作りのためワークライフバランスの勉強会を積極的に行っている。

本会のテーマは「看護職の可能性」である。看護研究は臨床看護の質の向上や看護の可能性につながる。研究結果は専門職として社会に認められることや、診療報酬の改定にもつながる。本学会の成果と皆様のますますのご発展を祈念する。





イギリスの看護管理

6月17日～26日にロンドンのガイズアンドセントトーマス病院で行われた研修について報告。イギリスの医療システムは、国民すべてが生後すぐNHS(国民医療保健サービス)に登録し、医療費が無料であり一次医療から三次医療までの役割が明確であることなどが紹介された。



演題発表

会場はほぼ満席で16の演題発表が行われた。参加者からは、「地域や他職種との連携の大切さを再認識した」という声が多く聞かれた。

看護師の化粧について入院患者の受け止め方の研究には、「管理者ほど身だしなみが大切」「患者に好印象を与える化粧は必要」「職場で啓蒙したい」など反響が大きかった。

示説

独自に作製した用具が展示され、実際に手に取り写真撮影しながら熱心に発表に聞き入る姿が多くみられた。



勝原 裕美子 氏 プロフィール

大阪生まれ。
兵庫県立看護学部教育・管理看護学助手、講師、助教授、兵庫県立大学看護学部助教授を経て、2007年4月より聖隷浜松病院副院長兼総看護部長。

特別講演

「キャリアの節目を楽しみ、 未来を展望する」

聖隷浜松病院副院長兼総看護部長 勝原 裕美子 氏

キャリアとは何か？キャリアの概念を感覚的に理解してもらいたい。勝原氏は一枚の紙に、参加者に看護師になってからの一番うれしかった時期と一番辛かった時期などグラフ様に記入してもらうことから講演ははじまった。

内容

～キャリアを考える上での前提～

- 成功や失敗、早い遅いは問わない
誰かに出会い、何かを感じ、自分をより深く知る
- 評価はその人自身がすべきで他人がとやかくいうものではない
- キャリアには主観的側面と客観的側面がある
客観的側面があるかどうか気づくのも自分次第
- 仕事に関係した体験の連続でありプロセスである
経歴やプロセスを積み上げるのではなくキャリアデザインしながらキャリアをつくっていく

～未来を展望するために～

- 個人・職場・組織のどのレベルでも、自分を信じ、周りを信じ感謝する
- 興味の幅を広げ、偶然の運を楽しむ
- 自分の部署だけでなく病院全体や医療の現状を知ったうえで働くことが大切

キャリアという言葉のイメージが変わり、より身近に感じられる言葉になった。参加者は勝原氏の経験に基づく楽しい講演を聞き、自分の経験に置き換えているようだった。「ひとはいくつになっても成長する」この言葉がとても印象に残り、参加者全員が前向きになれるような講演だった。

(記事 猿田真紀子)

看護部長が看護の思いを語る



No. 3 山本組合総合病院
看護部長

川村 啓子さん

組織について

農村の不況対処として昭和7年に医療利用組合が秋田の全地域へ設立されたのが厚生連の前身母体となっております。当院は平成元年に日本海と白神山地の自然豊かな場所に建築移転し、現在ベッド数500床・20科の診療科を標榜、人間尊重・高度医療・保健福祉と地域住民のニーズに対応できる急性期医療を目指しております。

看護に対する想い

私は昭和52年に厚生連に入職し、勤務31年目にして秋田組合総合病院から転勤となり、歴代の諸先輩・職員に支えられながら、16代目の看護部長として現在に至っております。50代前半までジェネラリストとして小児・婦人科を除く殆どの科で働かせて頂き、周囲諸先輩から多くを学びました。若い時分に上司から「看護師としてのデータ読み・情報収集はあらゆる日々の看護ケアに活用

するためのものであり、ベッドサイドで、五感を使って、創意工夫をもって、生活の支援者としての関わりに生かす。」この教えが私の原点になっています。

他職種とのチーム医療の中、患者さんに対する目標は一つと思っています。

看護業務で、特に保助看法での身の回りのお世話に対しては、専門的知識技術の基で医師の肩ごしの判断ではなく、生活の支援者としてリーダーシップをとるべきと思います。

尊敬する看護の先駆者として、紙屋克子氏の「人間としての尊厳・あきらめない看護」川島みどり氏の「看護は実践の科学」をバイブルに現場に活用してきました。好きな言葉は“ピンチはチャンス”これで幾度もの危機を乗り越えてきました。

伝えたいメッセージ「自分で考え行動」

日進月歩の医療情勢と患者さんの多様なニーズに応えられる様に、学習・知識・技術習得をし、チームの一員として専門性を発揮できるための感覚を常に持たなければと思います。私はその動機づけとなる環境づくり・橋渡しに努力しなければと思っています。

看護に対する診療報酬算定と専門分野での活躍範囲も益々拡大傾向にあります。同時に社会的評価・責任もついて回りますが、看護は人生経験全てが糧になり、又、現場での業務の中から、学び喜びを得られる素晴らしい職業と思います。生き生きと楽しく働き続けられる様ワークライフバランスへの環境づくりに努力したいと思います。

社会に対して

地域の中核病院として、自施設の病院機能の邁進と共に、患者さんを中心に行政・地域の医療施設・福祉施設等の密な連携の下に役割分担をし、チームとしての関わりができる様にネットワークづくりへの行動が必要だと思います。

自分で考え行動



「こまち」紹介

毎回、看護の専門性をたゆみなく探求し続ける認定看護師さんを紹介します。

野呂田 新さん

こまち File No.15

秋田社会保険病院
がん性疼痛看護認定看護師

今取り組んでいること

当院は病床数167床。緩和病棟や緩和ケアチームは有していません。そのような中、私はベッド数56床の外科・整形外科混合病棟に勤務しています。うち、がん性疼痛を有する患者さんは平均3～5名。その方々の痛みのアセスメントを行ない、プライマリーナースと共にケアの実践・評価を行なっています。依頼件数は多くはありませんが、他病棟の看護師から薬剤やケア方法などの相談を受けることもあります。また、診療報酬(がん性疼痛緩和指導管理料)算定に向けて医師と協働し、評価表の作成中でもあります。

皆と一緒にがんばりたいと思っていること

がん患者さんの苦痛は身体的な

要因だけではなく、精神的・社会的・スピリチュアルな要因が複雑に絡み合っており、その介入に難渋することも少なくありません。私自身、そしてスタッフのアセスメント能力・知識・技術の向上を図りながら、ひとりでも多くの患者さんが痛みから解放されるよう、日々取り組んでいます。



木村 陽子さん

こまち File No.16

JA 秋田厚生連 雄勝中央病院
認知症看護認定看護師

今取り組んでいること

現在日本は超高齢社会を迎え認知症高齢者も増加傾向にあります。一般の病院でもどの科を問わず認知症高齢者の数は増えていくでしょう。病気を持って入院してくる認知症者は身体の弱まりに加えて環境の変化に混乱し、心身ともに非常に辛い状態になります。こういった認知症者に少しでも心地よく穏やかに入院生活を送ってもらうため認知症ケアの理解を深めてもらおうと院内では全職種を対象に研修会を定期的に行ったり、認知症ケア委員会を立ち上げて志を共にするスタッフと事例検討などを行い、尊厳を持って認知症者と接することの重要性を共有し学んでいます。

皆と一緒にがんばりたいと思っていること

今年6月から認知症看護相談窓口を立ち上げました。介護されているご家族の苦悩は切実です。早期発見・早期治療、そして周囲の人たちの認知症への正しい理解と対応が認知症の進行を緩やかにします。今後は地域の認知症介護に携わる方々と連携を図りながら認知症の人でも安心して暮らすことのできる地域づくりに少しでも貢献したいと考えています。



地区活動報告

大館 地区支部

大館地区支部長 田村 チエ子

「看護情報交換会」

平成23年9月3日、「被災地における支援活動の報告」をテーマに、看護情報交換会を行いました。災害をテーマに開催するのは今回で3回目となりました。昨年までも、災害に対する関心は高く、多くの参加がありました。今年度は東日本大震災の発生もあり、64名の参加があり関心の高さがうかがえました。大館市消防本部の高橋幸一様から「緊急消防援助隊秋田県大館隊の活動内容と課題」、大館市健康推進課保健師の小林佳人様から「被災地における保健師活動報告～岩手県大槌町赤浜地区での支援活動を通じて～」、災害支援ナースの活動として、大館市立総合病院の小林文佳様から「災害支援ナースとは」、大館市立扇田病院の奈良かな子様から「岩手県立中部病院での活動報告」、秋田労災病院の本館奈津子様から「宮城県石巻市福祉避難所での活動報告」と5名の講師の方々から貴重な体験を報告いただきました。参加者からは、実際の活動報告を聴くことによって日々の看護や業務の重要性を再認識し、現場に活かしていきたいという感想が聞かれました。

今回、私たち看護師の活動を少しでも市民の方知っていただくという狙いもあり、市民公開講座とし広報にも掲載しました。

「まちの保健室in第24回大館ボランティアフェスティバル」

平成23年10月2日、秋田県北部老人福祉総合エリアで行いました。「まちの保健室」をはじめ、「健康相談」「ちびっこナース写真撮影」「高齢者・障害者模擬体験」など約200名の参加者を集め、好評に終了しました。

今後も専門職としてのレベルアップのために、研修会を企画していくとともに、市民の方に貢献していきたいよう活動していきたいと考えています。



横手 地区支部

横手地区支部長 小西 美喜子

研修会開催

横手地区支部では、毎年いろいろな分野から講師を招き、意欲的に研修会を開催しています。

今年度は、9月に秋田大学大学院医学系研究科保健学科専攻・臨床看護学講座助授の高階淳子氏による「リンパ浮腫のセルフケア」についての研修会を平鹿総合病院の講堂で行いました。

パワーポイントでの講義のあと、自分たちでできるセルフケアを体験。

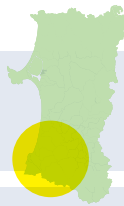
日常生活の中で、休憩時間に実践できる優しい内容が多く、高階先生は会場をまわり、直接ひとりひとりに手を添えて丁寧に指導して下さいました。

特に下肢のセルフケアでは、リンパの流れに沿ってケアした片方の下肢と、ケアを行っていない下肢と比較し浮腫みが取



由利本荘・にかほ 地区支部

由利本荘・にかほ地区支部長
佐々木 美恵子



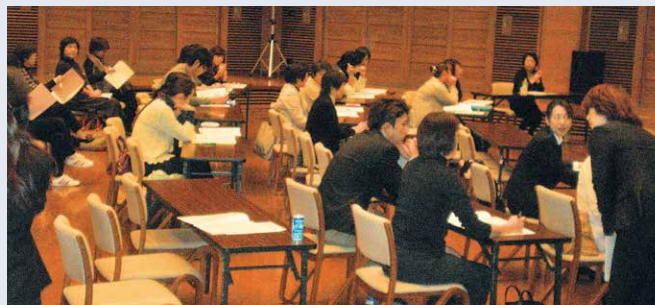
「看護研究発表会」

10月29日(土)河川利用総合レクリエーション施設「ポートプラザアクアパル」にて当地区支部今年度最後の事業である看護研究発表会を行いました。

今年は例年になく4題と少ない発表で、また、参加者も少なく多少寂しくもありましたが、どの演題も大変興味深いもので、質疑応答も含め、今後の看護に活かせる内容であったと思います。特に参加者から好評だったのが、由利本荘看護学校副校長の福田幸子先生の講評でした。「元気・パワーが最高でした。」「講評での学びが多くありました。」「来年も福田先生にしてもらいたい。」などの感想がきかれたように、説得力のある講評でありながらも、会場みんなが穏やかな気持ちになってる、そんな福田ワールドをみんなで体験でき、充実した素敵な時間を過ごせたかなと思います。

ただ、演題数、参加人数、日時、場所など今後の課題は多く、来年もより充実した時間が過ごせる事業となるようこれらの課題を検討していきたいとします。

また来年度へむけての役員の活動はつづいているわけですが、今年度全ての事業を終えて今思うことは、協会員、各施設のスタッフの皆様の理解、協力なくしてはとても成り立たない事業ばかりです。協会員の減少がみられる当地区支部としては、もっとPRの場、PRの方法を検討していく必要があると思いました。今後も会



員の皆様が会員で良かったと言えるようなあるいは、看護協会員になりたいと思うような活動を継続していくよう役員一同努力していきたいとします。他の施設の役員同士ですが、ご縁あつての出会いなので今後も楽しく活動していきたいと思っています。



れていたのにはびっくり、参加者より驚きの声と笑い声が聞かれました。また質問も多く、参加者の積極的な姿勢が感じられました。

研修会終了後も、講師を囲んでの会話もはずみ、高階先生の気さくなお人柄から、とても和やかな雰囲気で行うことができました。

今後も心身ともにリフレッシュでき、看護職としての専門性を高められるような楽しい研修会を企画していきたいと考えております。



在宅 看護

シリーズ 9 北秋田市地域包括 支援センター

春日 富二子

地域包括支援センターって どういう所

地域包括支援センターは、住み慣れた地域で安心して元気に暮らすことができるよう、高齢者の生活を支える役割を果たす総合機関として設置されました。職員は保健師又は在宅看護経験のある看護師、社会福祉士、主任介護支援専門員が配置されております。地域の高齢者の様々な相談や要望に、保健・福祉・介護の3職種がそれぞれの専門性を活かし、チームで連携しながら業務をすすめます。当センターには看護の基礎資格者が6名おります。相談者のほとんどが何らかの病気を抱えておりますので、看護職にはその方達の生活習慣や病状、在宅での暮らしぶりを観察して的確なアドバイスが出来る強みがあります。なかには虐待の相談もありますが、精神状況や身体状況の把握には必ず看護職が同行します。また、地域のケースワーカーやケアマネジャーの方達からも、担当しているお宅への同行訪問を頼まれる事もしばしばです。

看護職が担当する業務のひとつに、介護予防への取り組みがあります。病気や生活習慣、社会参



加の視点を捉え、要介護状態になる事を予防し自立度を高める為のプランを高齢者と一緒に作成します。また、地域の要望に応じて、自治会館や集会所に出向き介護予防の方法の実際を指導します。

センターの業務は地域の社会資源との連携が鍵になりますが、その一つに訪問看護があります。北秋田市内には訪問看護ステーションが3箇所あります。訪看さん達は広範囲な地域を昼夜問わず、冬季は雪寄せをしながら、地域によっては片道1時間程も掛かるお宅へ訪問している姿には頭がさがります。医療機関が市街地に集中しておりますので、訪問看護は交通の便の悪い山間地域に住んでいる方達にとって、地域の命綱として今後増々期待されると感じております。

北秋田市の人口は36,700人ですが、市の面積は115,257ヘクタールと県内2番目に広く、豪雪地域も抱えております。私達は一人でも多くの高齢者に直接お会いしてお話ができるよう心がけております。広範囲な地域を駆けずり回っておりますが、行く先々でお会いする皆さんの笑顔が、職員の活動の原動力です。



在宅会員 交流会報告



目的●看護協会の在宅会員が、看護職としてこれまで培ってきた知識と技術を活かし、地域社会で活動する場を広げるとともに、在宅会員の協会事業への参加を促進し、協会組織の強化をはかる。

日時●平成23年8月25日(木) 13:30～16:30

場所●秋田県看護センター5階 第一研修室 出席者:27名

内容●1. 情報提供「看護の動向と看護協会の活動」

秋田県看護協会長 烏トキエ

2. 体験発表:テーマ「地域社会で看護職として生き活きと!」

(1) まちの保健室を担当して

秋田県看護協会「まちの保健室」相談員

小原良子氏・大島良子氏

(2) 秋田県小児救急電話相談事業を担当して

小児救急電話相談員

石塚恵美子氏

(3) 社会福祉協議会評議員として

北秋田市社会福祉協議会評議員

畠山洋子氏

(4) 地域健康づくり「がん予防対策」活動に参加して

在宅保健師等ゆずり葉の会会員

河西淑子氏

3. 情報交換



まとめ● この在宅会員交流会は3年目の開催であり、今年は会長からの情報提供に引き続き「地域社会で生き活きと!」をテーマに4名が体験発表をし、情報交換では感想や日頃考えていることなど活発に話しあい、地域社会における看護職の活動の重要性を確認しあいました。体験発表を聞いて、「看護職の地域に貢献している姿に感動した」「こうした会に参加できて良かった」等、感想を述べていました。看護協会に対しては、地域では看護職の力を求めていることから、在宅看護職の力を市民向けに発揮する場にする。救護や健康相談等の依頼があったとき活動できるようにする。更に、各地区支部単位で在宅看護職を登録して活動の場を提供する等、具体的な意見もありました。これらの意見は、今後看護協会の運営に参考にしていきたいと思います。

平成23年度 認定看護師 連絡会議・研修会 実施報告

日時 ■ 平成23年9月29日(木) 9:30～16:00

場所 ■ 秋田県看護センター 5階研修室

対象 ■ 秋田県内の認定看護師 参加者29名

目的 ■ 県内の看護の質向上に貢献している認定看護師の今後の活動を支援するため、県内の認定看護師が一堂に会し、状況把握や、情報交換・相互連携の推進を図る。

会議・研修内容

報告: 理事 佐藤光子 事業部長 宇佐美正子

情報提供

「最近の看護を取り巻く状況と看護協会の動き」

講師 ■ 秋田県看護協会会長 烏トキエ

東日本大震災への日看護協・県協会の取り組み、新人看護職員研修、チーム医療の推進各職種の業務拡大、特定看護師(仮称)、新公益法人設立、秋田県看護協会事業、喀痰吸引等の制度についてなど

講演

テーマ ■ 「看護実践とエビデンス」

講師 ■ 日本赤十字秋田看護大学大学院 教授 村井貞子氏

内容 ■ 昭和36年発行の「厚生指針 特集・国民衛生の動向」の本を持参し、感染の学問を深めた経緯について、データを示しながら述べられた。最後にEBMのエビデンス水準、EBM(N)について誤解していることなどについて述べられた。

グループ ワーク について

テーマ ■ 「認定看護師交流会・ネットワークづくりについて」

6グループに分かれてワークし結果を発表後に、全体ワークで「次年度以降の在り方」を決定する。

[各グループの意見]

- 看護協会が中心で、認定看護師ネットワーク事務局を県南・県北・中央などにする。
- 主催は看護協会の方が、病院から研修参加するうえで強みとなる。
- 看護協会が中心となって認定看護師も介入する。認定の事務局部門は協会に協力したい。
- 認定看護師が中心となって活動をする。
- 看護協会が中心となって認定看護師も介入する。
- 主催は看護協会、企画は認定看護師が行う。

会長より、「次年度の方角はこの場で決定したほうが楽でないか、場所や情報の提供、名簿作成などは看護協会がサポートできる。看護協会として支援するが、企画や運営は認定看護師が行う。講演になると研修会に含まれるので難しい。事例検討などで、講師は認定看護師の中から進めていくこと」などアドバイスがあった。

決定内容

認定看護師連絡会議の担当代表者

5名決定した・・・自薦

- 武田 美幸: 由利組合総合病院
- 高橋加代子: 外旭川病院・・・連絡窓口
- 茂内 陽子: 山本組合総合病院
- 富野江里子: 外旭川病院
- 佐藤美夏子: 市立横手病院

- 担当任せにしないで協力を求められたら、必ずレスポンスする
- 会代表の連絡窓口担当者は、来年度の事業計画を11月20日まで、協会事務局常務理事に届ける。

所感

認定看護連絡会議・研修会事業は、次年度からは、代表の方がネットワークを通して、事業の企画・運営をすることになり、協会はサポートの立場で協力することで一歩前進することができた。

認定看護師の皆様は、積極的・かつ論理的に会を進め、自律性の高さが伺えた。今後はネットワークづくりや研鑽など、多いに企画に生かし、活発な運営になることを期待したい。



平成23年度 認定看護師 連絡会議・研修会

アンケート集計

日 時 ■ 平成23年9月29日(木) 参加者 ■ 29名
アンケート回収 ■ 28枚 回収率 ■ 97%

認定看護師の活動状況

1 認定分野・取得後の年数について

認定分野	参加人数	取得からの平均年数	認定分野	参加人数	取得からの平均年数
感染管理	6名	2年2ヶ月	新生児集中ケア	1名	2年2ヶ月
皮膚排泄ケア	7名	3年2ヶ月	脳卒中リハビリテーション看護	1名	3ヶ月
緩和ケア	6名	2年10ヶ月	認知症看護	1名	8ヶ月
がん化学療法看護	2名	1年2ヶ月	手術看護	1名	3年
救急看護	2名	3年7ヶ月			

2 現在の年齢について

年代	人	年代	人	平均年齢: 40.2歳
30代	14	50代	3	
40代	11			

4 認定取得後の活動実績について、該当する項目に○をつけて下さい(複数選択可)

同僚や後輩のモデル	18
部署内での看護サービスの質向上	16
チーム医療の推進(チーム名)	11
施設全体の看護サービスの質向上	18
組織的な変革(業務改善などあれば記載)	6
その他	1

6 認定看護師としての悩みなどについて

- CN以外の業務が多く活動時間を十分確保できない。しかし上司から望まれているのは理解できジレンマがある。
- 自身がやりたいことと周囲からの期待のギャップのプレッシャー
- 活動するための院内の組織横断がうまくいかない。
- 認定看護師の待遇が各病院・施設によってまちまちであるが、ある程度(例えば手当など)を基準化してほしいと思う。→モチベーションの継続のためにも。
- 学会やセミナーへの参加のため、費用が大きく負担となる。
- 施設・看護部から求められる役割や能力が自分の考えや能力と異なったものがある場合でも、やらなければならない。チーム専従で勤務している場合タイムリーに相談できるスタッフがおらず不安を常に感じている。
- 同規模病院の認定看護師の活動状況を知る機会が得にくい。
- 自分が診療報酬をとるためのこまづかいみたいになっているような気がしてならない。看護の質を上げたいという目的で頑張っているのに求められるのは件数な気がする。もう少し認定看護師の目的を管理者の方々にわかっていただきたい。

3 活動範囲の変化、独立した分野での活動状況について、資格取得時と現在について

認定資格取得当時と、現在の活動範囲の変化について	資格取得時	現在
施設内全体	15	18
施設一部	1	0
看護部内	4	4
部署内	6	5
その他	2	2

認定看護師として独立したポジションで活動している	資格取得時	現在
独立している	5	12
独立していない	22	15
記載なし	1	1

※活動範囲は取得時も現在も施設内全体が多かった
※資格取得時は病棟兼務4名、外来3名、緩和ケアチーム1名
※現在のポジションは緩和ケアチーム専属、管理業務、病棟、がん医療相談などだった

5 認定看護師の広告への利用状況

広告内容	人数	広告内容	人数
看板	0	施設案内	4
院内掲示板	2	職員募集	11
施設ホームページ	10	その他	2
施設案内	4	記載なし	8

認定看護師連絡会議・研修会について

1 今回の企画についていかがでしたか

- エビデンスを得るためのプロセスを具体的(先生の定義)内容から知る事ができた。
- 認定看護師としてイニシアチブを持った会議がもてた。
- 講演内容が期待したものと若干相違があった。GWを通し他分野、他施設のCNとの交流ができ、今後の方向性を見出すことができた。
- 問題提起については現状の分析と提示が大きな意見をもつことを学ぶ機会となりました。
- グループワークで次年度以降の活動について決定するという内容なのであれば、開催前に連絡を頂きたかった。事前の研修案内と内容が違うと思いました。(決定した内容に不満があるわけではないです。非常に良い企画となりました)
- 初めて県内のCNの皆さんと意見交換できたので良かった。
- グループワークが今後の活動(運営的なもの)に役立った。

2 看護協会に望むこと、気付いたことについて

- 今後も協力(情報提供・場所提供など)をお願いしたい。
- 活動状況などアンケート集計をホームページに載せてほしい。
- 今後さらに人数が増えることを考えると難しいと思うが、他の領域の方と交流する機会は本当に少ないので続けていただければありがたい。特に認定看護師なりたての人は人脈作りの一つとして有効と思う。
- 小規模病院の認定を増やしてほしい。
- 場所などのことだけでなく、後方支援をしていただきたい。できれば予算など
- 研修生へのフォロー、バックアップ体制の改善
- トピックス的なことをテーマに開催してほしい。専門性の追求というような内容でCNやCNSが、どう組織の中で教育していくか、人を育てるかを実践で活躍しているCNやCNS、看護部長(CN)の方が話すなど

WORKLIFEBALANCE



H23年度 ワークライフバランス(WLB) 研修会報告

目的 ● 看護職が働き続けられる職場の構築・地域社会・家庭で生き生きと役割を果たしていく環境づくりを進めていくうえで、一人ひとりがワークライフバランスへの理解を深める。

日時 ● 平成23年7月26日(火) 13:30～16:00

参加人数 ● 65名(看護師・助産師・准看護師)

内容紹介

講演 ● 「ワークライフバランス推進の現状と課題」

講師 ● 秋田県生活環境部男女共同参画課 主任 土門 純子氏

講演の内容は①人口減少時代と女性の労働力②私たちの働き方を確認してみる③ワーク・ライフ・バランスの実現に向けての3点を諸外国や我が国、そして秋田の現状を踏まえ、仕事と生活の調和で心も体も健康に、生き生きと役割を果たしていく環境づくりについて講演されました。参加者からは「統計で示されておりわかりやすく聞くことができた」と好評でした。

事例報告 4医療機関からそれぞれ行っている現在の取組について

- | | | |
|---------------|--------|--------------------|
| ● 本荘第一病院 | 大須賀 滝子 | 「働き続けられる環境を工夫してみて」 |
| ● 花園病院 | 佐々木 吉明 | 「夜勤専従者の導入を実施してみて」 |
| ● 中通総合病院 | 佐藤 信子 | 「メンタルヘルスケアの紹介」 |
| ● 秋田大学医学部附属病院 | 小野 寿美子 | 「病児保育をおこなって」 |

事例報告についての意見交換

会場の多くの方々から質問や意見が交換され充実したものとなりました。参加者からは「他施設での取組をきくことができ参考になりました」と事例報告は好評でした。



まとめ

ワークライフバランス(WLB)は難しいことなく身近なものの工夫やサポートの仕方です。いろいろとできることがわかりました。WLB研修会参加者のアンケート(参加者65名中回答者64名)では参加者の89%が看護師、次いで助産師や准看護師となっており、勤務先は病院が91%次いで教育機関でした。30代～50代の年齢が多くそのうち既婚者は70%以上でした。職責は30%近くが主任・課長・師長で次いで管理職が14%でした。多くの参加者やスタッフのみならず管理者の参加からもわかるようにWLBは皆に関心が高く、研修会の内容や方法に対する評価が高かったです。そして参加者の98%がWLB研修をさらに希望しており社会経済福祉委員会として今後もよりWLBを理解、推進していくことができるような事例報告等を広くアピールしていきたいと感じました。

平成23年度 環境・保健事業

功労者表彰

Meritorious Deeds

Commendation Ceremony

おめでとうございます。

平成23年10月6日(木)、秋田県庁正庁にて、平成23年度環境・保健事業功労者表彰式が行われました。



平成23年度

環境・保健事業 功労者表彰 受彰者

(順不同)

伊 藤 榮 子	日本赤十字秋田看護大学 看護学部 教授
神 田 和樹子	秋田赤十字病院 看護部長
猿 田 久仁子	秋田赤十字病院 副看護部長
佐 藤 タツ子	JA秋田厚生連 雄勝中央病院 看護主任

当協会から第一副会長 佐藤ヨシ氏が、来賓として出席いたしました。(写真右端)

平成24年度

改選役員 及び 推薦委員 の 立候補 並びに 推薦 について

選挙管理委員会 からのお知らせ

平成24年6月13日(水)に開催される通常総会において、改選役員及び推薦委員の選挙を実施いたしますので、立候補並びに受付期間などについてお知らせいたします。

I 改選役員数と役職名

1. 役員

理事13名(任期2年)

(会長、副会長、常務理事、会計、教育、看護師職能、能代・山本、秋田臨海、由利本荘・にかほ、大仙・仙北、横手、湯沢・雄勝、准看護師)

監事 2名(任期4年)

2. 推薦委員2名(任期2年)

II 立候補受付期間

平成23年12月15日(木)
～平成24年2月29日(水)

III 立候補届出用紙

本会ホームページからダウンロードしてご使用ください。

IV 立候補届出先

〒010-0874 秋田市千秋久保田町6-6
(社)秋田県看護協会内
選挙管理委員会あて

推薦委員会 からのお知らせ

平成24年度改選役員及び推薦委員の候補者について、会員各位におかれましては、次の項目に該当する方を公募いたします。

1. 推薦基準

- (1) 秋田県看護協会の目的に沿って、組織を強化・発展させるよう実践できる人。
- (2) 秋田県看護協会事業に熱意を持って、共同できる人。
- (3) 本会の実情に合わせて、定例会に参加できる人。

2. 推薦方法

推薦用紙に記入し、郵送をお願いします。
(推薦用紙は本会ホームページからダウンロードしてご使用ください。)

3. 受付期間

平成23年12月15日(木)
～平成24年1月20日(金)

4. 改選役員数と役職名

1. 役員

理事13名(任期2年)

(会長、副会長、常務理事、会計、教育、看護師職能、能代・山本、秋田臨海、由利本荘・にかほ、大仙・仙北、横手、湯沢・雄勝、准看護師)

監事 2名(任期4年)

2. 推薦委員2名(任期2年)

5. 推薦書届出先

〒010-0874 秋田市千秋久保田町6-6
(社)秋田県看護協会内
推薦委員会あて

平成23年度

秋田県看護行政懇談会 開催される!!

日 時 ●平成23年10月13日(木) 15:30～17:00

場 所 ●秋田県看護センター 会議室

出席者 ●秋田県 7名(健康福祉部長・次長・参事兼医務薬事課長・医務薬事課看護・地域医療班4名)、
秋田県看護協会 9名(会長・第二副会長・常務理事・会計理事・三職能理事・事務局2名)
総勢16名

懇談会の概要

はじめに烏会長が、日ごろ、看護行政を推進していただき、特に認定看護師の修学支援や新規事業として看護職員の多様な勤務形態導入事業等のご支援をいただきありがとうございます。看護行政懇談会は今回で4回目となるが、このような会が開かれ意見交換の場が持てるということは、ひいては秋田県民の健康増進に繋がるものと思うと挨拶。市川秋田県健康福祉部長からは、当県の保健・医療・福祉にご尽力いただき感謝申し上げる。様々な施策を皆様の意見も聞きながら推進しているところである。今日は忌憚のないご意見をいただき、来年度の予算編成の参考にしたい。この情報交換が実りのあるものになることを祈念すると挨拶がありました。



協議として協会から提示した「看護職員確保対策：離職防止と再就業支援対策」としての①新卒看護師の卒後研修の推進②働き続けられる職場環境の整備③再就業支援事業の継続等について意見交換が行われました。新卒研修については、新人職員を組織の中で支える仕組みをつくることも理念の1つなので、参加する病院が増えるよう看護協会から力添えしてほしいと県の担当者から依頼がありました。

働き続けられる環境整備については、24時間保育の推進や難しさ、多様な勤務形態導入支援が話題となり、再就業支援事業については、効果を上げてはいるが、PR不足の面があるので、今後のPRが課題となりました。その他「看護の雇用の質」向上の取り組みや福祉との連携による安全な看護・介護の推進、助産外来、看護の専門化が進んでいること、県民の健康増進に役割を果たしている保健師の適正配置について等々幅広い話題が交換され、相互に理解が深まりました。来年はさらにグレードアップして事業に取り組んでいきたいので、よろしくご指導いただきたいと烏会長から締めくくりの挨拶があり閉会となりました。



セカンドレベル研修受講ニーズ調査結果報告

来年度以降の事業開講について皆様からのご協力をいただき調査をいたしました内容について次のとおりご報告いたします。ご協力いただきましたこと、心より感謝申し上げます。

1. 調査期間：平成23年10月20日～10月31日
2. 調査対象：会員施設75施設、ファーストレベル研修修了者の
在籍施設・看護学校など10施設
合計85施設の看護管理者
3. 回収：47施設 回収率：55%
4. 調査結果 1)平成24年度から28年度までの
セカンドレベル研修応募予定人数
2)意見 隔年でも継続してほしいと
希望する施設が大多数であった

平成24年度	26人～25人
平成25年度	33人～32人
平成26年度	34人～33人
平成27年度	18人～17人
平成28年度	16人～15人

- 平成25年、26年の受講ニーズが高く定員を満たしている。
- 平成24年度の応募予定は、平成23年度の応募人数を若干上回っている。

この結果を踏まえ、24年度もセカンドレベル研修会を開講いたします。

内容の詳細については、平成24年3月初旬発行予定の「平成24年度教育計画」冊子にてご確認ください。

平成24年度第39回秋田県看護学会演題募集について

演題受付期間：平成24年4月2日～5月1日必着

演題申込についての詳細資料は、12月中旬に各施設へ送付いたしますので、沢山のご応募をお待ちしております。

事業部直通

☎018-831-8020 FAX.018-831-8023
E-mail; a.kango.kyouiku3@jupiter.ocn.ne.jp

～良い掛けふとんとは？～
羽毛の育ちで決まります！

羽毛1gを入れて
かさ高を比較！

未熟ダウソ 成熟ダウソ

ふくらみがこんなに違う！

ホワイソ ダウソダウソ90% 東洋羽毛のグレイダウソダウソ90%

東洋羽毛では飼育にしっかりと時間をかけて成熟した高品質な羽毛を採用しています。

Shanti
— シャンティ —

おかげ様で66,000枚
ゴア®羽毛ふとんは
多くのお客様にご愛用いただいております。
Since 1994

東洋羽毛北部販売(株)秋田営業所
〒010-0951
秋田市山王6丁目9-25山王SEビル

お気軽にお問い合わせください
フリーコール 0120-639601

今回掲載された文章や写真、個人名・団体名については個人情報保護法の下、他の目的には一切使用いたしません。

編集後記

今年もあっという間に1年が終わろうとしています。会員の皆様にはどのような1年となったでしょうか？寒さもいよいよ厳しくなり何かと忙しい年末ですが、どうぞ体に気をつけてお過ごし下さい。会員の皆様が興味を持って読んでもらえるような「看護あきた」を目指していますので、是非、ご意見、ご要望をお寄せ下さい。お待ちしております。

(広報委員 保坂 記)

看護あきた Vol.106 平成23年度 3号

Nursing Akita



発行日／平成23年12月20日

発行責任者／(社)秋田県看護協会 会長

発行所／(社)秋田県看護協会 秋田市千秋久保田町6-6 Tel 018-834-0172

印刷所／秋田中央印刷(株) 秋田市新屋豊町6-43 Tel 018-823-7577